



令和7年9月29日

10月 調布幼稚園だより



『運動会に向けて』

園長 山形美津子

暑かった夏も終わり、ようやく秋の気配を感じるようになりました。9月はプール活動の可否に一喜一憂しましたが後半は何とかプールに入ることができ、幼児期の運動遊びの中でも水に親しみ、水の中でのいろいろな動きに挑戦するという目的は達成できたと思います。

年少組は、徐々に園生活のリズムを取り戻し、好きな遊びやクラスでの活動を思い出し、楽しく過ごすことができました。年中組が昇降口やゆり組の部屋で行っていた「年中まつり」にお客さんとして参加して楽しく交流もできました。年中組がやっているたこ焼き屋さんや綿あめ屋さんに「ください」と言えなくてもじもじしていた子も先生と一緒に言ってみるなど、少し勇気を出して言えるようになりました。このような積み重ねが基盤となりいろいろな人とかかわる楽しさを感じてコミュニケーション力を育んでいきたいものです。

年中組は夏休みの各ご家庭での経験を活かして、「年中まつり」を行いました。縁日のお店や射的屋さん、くじ引き屋さんなどがありました。子どもがたちの「これがしたい」という主体的な発案でいろいろなお店が出てきたようです。積み木や段ボールを使ってお店の場を作るのもとても上手になってあつという間にそれぞれのお店ができてしまうことに成長を感じました。初めは年中組同士でお店屋さんになったりお客さんになったりしていましたが、後半は年少組に「遊びに来ていいよ」と声を掛け、お客さんがたくさん来てくれるとますます張り切って対応していた年中組です。

年長組は水に浮かべて走らせる舟作りに挑戦しました。ゴムの動力を使って作るのですが、その仕組みについて興味をもち、作っては実際に水に浮かべてみて、また作り替えたり試したりすることを繰り返していました。うまく舟が走らないこともありましたが、諦めないで何度も動力の部分を修理することでやっと船が前に進んだという子もいました。諦めないで成功するまで取り組む子どもの姿に、年長児らしい成長を感じました。

10月はそれぞれの学年が運動会に向けての活動をします。

いつも調布幼稚園の子どもたちが指導して頂いているさわだスポーツクラブの中村聡志先生が、この度『保育者のための運動あそび大事典』(明治図書)という本を発行されました。日頃、幼稚園の正課の中でご指導頂いている内容の運動遊びについてのねらいと遊び方、子どもが楽しめるようにするポイントなどが書かれています。私たちにはとても参考になるご著書で中村先生の長年のご経験によるものだと感銘を受けました。

このご著書の中で、中村先生は運動の好き・嫌いの二極化が年々進んでいることを危惧されています。その原因としては成功体験の有無と自信の有無、運動が得意な子は成功体験から「楽しい」と感じ、自信をもつことでさらに運動が好きになっていく、逆に運動に苦手意識が強い子は失敗を経験しやすく運動に対して消極的になってしまうそうです。中村先生は運動の好き・嫌いの二極化がなくなりみんなが運動することを楽しめるようになってほしいと考えているとのこと。このことは運動に限らず、子どもの生活の中でも日々繰り返され、自分がやろうとしたことがうまくできたときには自信につながり、そのことがますます好きになり伸びていきます。また何か苦手意識がある子はそのことに取り組むことさえ避けてしまうことがあります。まずは子どもが好きなことを見つけて自信をもって取り組んでいけるようにしましょう。幼稚園でも運動会への取り組みを通して子どもたちが自信をもって、堂々と演技や競技をしてくれるように進めていきます。

保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご支援、ご協力の程お願い申し上げます。

10月の目標

全学年

- 全員で運動会の醍醐味を味わう。
- 運動会で頑張る姿をお家の方に見てもらい満足感を味わう。

年少組

- 保育者や友達のしていることに興味をもったり、様々な遊具や素材にかかわったりして夢中になって遊ぶ。
- 友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言ったり、友達の思いも感じられたりするようになる。
- 運動会に向けて体を動かして踊ったり、思い切り走ったり、みんなと一緒にいることを楽しむ。

年中組

- 友達とのかかわりを楽しみながら、自分の思いを伝えたり、相手の思いも聞いたりして遊ぼうとするようになる。
- 運動会に向けて、いろいろな動きを試しながら体を動かしたり、思い切り走ったり、表現したりすることを楽しむ。
- みんなで一緒に取り組む中でルールを守って遊ぶ楽しさや必要性に気付く。
- 安全に過ごすための約束や決まりが分かり、自分から守ろうとする。

年長組

- 運動会を自分たちで進めようとする気持ちをもち、学年の友達や教師と一緒に共通の目的に向かって活動を進め、友達の良さに気付いたり、認めたりする。また、力や気持ちを合わせる心地よさを味わう。
- 自分の力を出し切ったり、競い合ったりする中で嬉しさや悔しさを味わい、気持ちのコントロールをしようとする。
- 運動会に向けて、見通しをもちながら準備をしたり、生活を進めたりする。

歳時記

「お月見」

むかし(旧暦が使われていたころ)は、7月から9月までが「秋」とされており、真ん中にあたる8月は「中秋(ちゅうしゅう)」とよばれました。この月の15日(十五夜)の夜に出る満月は「中秋の名月」といわれ、収穫を祝ってお供えをし、月見をする風習がありました。これは平安時代に中国から伝わり、しだいに広まっていきました。

秋の収穫が始まるころともかさなり、「お月見」の行事には、収穫祭の意味もこめられています。現在では、9月後半から10月の初めごろに当たります。

むかしから日本では、旧暦の9月13日の十三夜に収穫を感謝する行事として月見をする習慣がありました。また、今でも十五夜にはいも類を供え、十三夜には豆や栗を供えて楽しめます。

【月のうさぎ】 日本では「月にうさぎが住んでいて、餅つきをしている」といわれていますが、中国では「月のうさぎは薬草をついている」と考えられています。

「和の行事えほん2 秋と冬の巻(あすなろ書房)」より

【歌】 ♪月(文部省唱歌)

♪うさぎ(作詞作曲不詳)

♪証城寺の狸囃子(作詞:野口雨情 作曲:中山晋平) など

今年の十五夜は 10月6日

十三夜は 11月2日

【絵本】 ☆パパ、お月さまとって!(エリック カール)

☆14ひきのおつきみ(いわむら かずお)

☆ぼくのともだちおつきさま(アンドレ ダーハン)

☆おつきさまでたよ(いもと ようこ) など



年少児が粘土で作ったお月見団子